

第二回 学校運営協議会

日時：令和元年11月16日（土）

場所：イングリッシュルーム

参加者：校長 副校長 小野田 永島 小川 市川 伊藤 志村 小田

1. 令和二年度 学校経営計画について 校長

学校経営計画について皆さんの承認を頂けたら、具体的に動こうとしている。

第1回は運動会についていろいろなご意見をいただきました。皆様のご意見をもとに計画を立てた。

- ・来年度も子供をど真ん中に教育活動を進めていきます。今までと違うところは、学校と地域がより連携して課題解決をしていきたい。（子供たちの豊かな育ちを支えるサポートチームの構築。）
- ・子供をど真ん中に置くグローバル時代を生きる知徳体のバランスのとれた子供の育成

2. 第三小学校の特色について

○外国語活動の充実…都教育研究会会長として、専科がいる環境を生かして充実させていく。

○東京女子体育大学との協働…校内研究の体育において体育大学の力も借りながら進めていく。授業時の参観、大学教授から授業に対するアドバイス、学生ボランティア

○多文化共生…中国人留学生の子供たちとの交流、ニュージーランドの子供たちとビデオチャット交流、LGBTの問題について研修を積む、障害のある方々との交流

○ホンモノ体験…オリンピック、パラリンピアンとの交流、アルバルク東京選手との交流、著名なダンサーや音楽家等との交流

3. 特別支援教育の充実について 副校長

・校内委員会を月1回実施し、教室に入り他のお子さんと同じように授業に参加することが難しいお子さんについての共通理解を図りチームとして対応していく。

- ・スーパーバイザーを呼んで専門的なアドバイスをいただいている。
- ・家庭と連携して特別支援教育に取り組んでいく。

校長

今年度の一年生について、発達に課題のある子が多く保護者からも心配がよせられていた。入学前の相談件数は市内でトップの数だった。そのうち何名かは教室に入ることが難しい場合もあり、教員が必死にやって何とか教室が崩壊していない状態を保っている。他学年にも発達の課題を抱えている子はたくさんおり、新三年生も二クラスになると大変になることが予想される。今は全校朝会なども水を打ったように静かにしている。担任が抱

きかかえるようにしてなだめたり、支援員が離れたところで見守ったりしていることで保っている。

外国籍の児童も増えてきている。外国語や異文化への対応も課題となる。至誠からきている児童に対する支援も必要である。個別で対応することが望ましい数は増えている。

4. 市民科について 副校長

立川市の将来を担う人材へと育てるために。各学年の取り組みを紹介。

地域の人材の協力をいただきながら体験的な学習を行っている。来年度以降も充実発展させていくよう取り組んでいく。

5. 小中連携について

漢字検定について、かつては三中を会場とし、今は三小会場として行ってきた。六小、七小の参加人数が少ないこともあり、来年度は休止させていただく。来年度以降は小中連携としてではなく、やるとしても三小独自で行う予定。三中校区としての連合音楽会は令和2年度から行う。

質疑応答・委員からの意見

Q:特別支援が必要な児童のようすについて具体的にはどういう状態なのか。

A:教室に入ることができずにいる児童や、授業への参加が難しい児童、授業内容についていけない児童等がいる。

Q:個別の支援が必要な児童が多いようで大丈夫なのか。

A:ボランティアを申請しているがおそらくまだ足りない。担任の頑張りで何とか乗り切っている。

- ・字が読めない子が多い、短作文を書くことや辞書の活動はぜひ続けてほしい。
- ・絵文字やスマホを使うので自分の力で漢字を覚えようとしたくないのではないか。
- ・ホンモノ教育はとても良い。体験的に学ぶことやホンモノから学ぶことを大切にしてほしい。ゲストティーチャーとして三小に来た時には挨拶してくれる子が多いのでうれしい。

6. 令和二年度 教育活動方針について 第一回の会議をもとに

運動会について 校長

暑さ対策…遮光ネットは4枚に増やす。昼食場所は北校舎を開放し、周知を図る。ミストシャワーは来年度も行う予定。ネッククーラーの使用を認める。

時間短縮…14時までには終わられるようにする。応援団の時間短縮、全校種目の隊形のまま午後を開始する。未就学種目、PTA種目カット、選抜リレーの人数を減らす。市内の5校では午前中開催のところもみられるが、錦町では家族で昼食をとり、午後まで行うこととする。団体競技は例年通り行う予定。ただし3、4年生、5、6年生は一緒に行う。

サポートチームについて

学校が危機的な状況にあるときにチームでサポートする

コミュニティスクール委員、SC,SSW、巡回指導員、市教委、子家センター、立川児相、立川警察、病院の医師。スクールロイヤーについては立川市にもいる。

不登校対応について 副校長

立川市の出現率が都内の平均より高い。東京都では0.56%、立川市では0.76%

本校では連続で1か月来ない子はいないが、年間30日以上休む児童は多い。学校に足を運ぶことを担任中心に必死に呼びかけている。担任を孤立させないようにチームで対応している。不登校児童への対応をフローチャートに表すことをしている。

児童支援体制 副校長

発達課題、暴力・暴言のある児童、外国籍の児童、これまでの対応に加え、教室から取り出して指導できる人材の確保を予定している。

学校行事のサイクル 校長

令和元年度以降…'19 展覧会⇒'20 学芸会⇒'21 音楽会⇒'22 展覧会

来年度の夏の予定について 校長

7月29日オリンピック観戦について 学校行事として4年生から6年生まで観戦する。28日まで登校日とする。5日間伸ばすことで授業時数確保することができる。

質疑応答・委員からの意見

- ・不登校の問題について何が課題で、どんなことができるのか。非常に難しい問題で学校だけ、地域だけの対応では難しい。
- ・役所が作ったネットワークは形だけになっている。問題の解決につながっていない。似たような問題で、自治会の加入率の限界も感じる。行政の介入も必要ではないか。
- ・ナイト〇〇で交流を図る地域もある。平日の夜なら地域の交流が深められることもあるのではないか。

7. 令和二年度の学校経営方針について承認確認

承認します。